

育成を目指す資質・能力

- （知・技）住まいの整理・整頓や清掃の仕方についての基礎的な知識と、それらに係る技能
- （思・判・表）住まいの整理・整頓や清掃の仕方について問題を見だし、適切に解決する力
- （主体的態度）家族の一員としてよりよい生活の実現に向けて、家庭で実践する楽しさや家族との関わりを感じながら、住まいの整理・整頓や清掃をしようとする態度

ICT活用のポイント

何度も繰り返すことができる整理・整頓のシミュレーション

1 本時のめあてをつかむ。

めあて：シミュレーションをしたり、実際に整理・整頓をしたりして、必要なものをすぐに取り出せる整理・整頓の仕方を見付けよう

2 シミュレーションや机の引き出しの整理・整頓をして、整理・整頓の仕方を話し合う。

3 本時の学習の振り返りをする。

事例の概要

ICT端末を用いた整理・整頓のシミュレーションや、机の引き出しの整理・整頓を基に、整理・整頓の仕方を話し合うことを通して、必要なものをすぐに取り出せる整理・整頓の仕方について、自分なりの考えをもつ

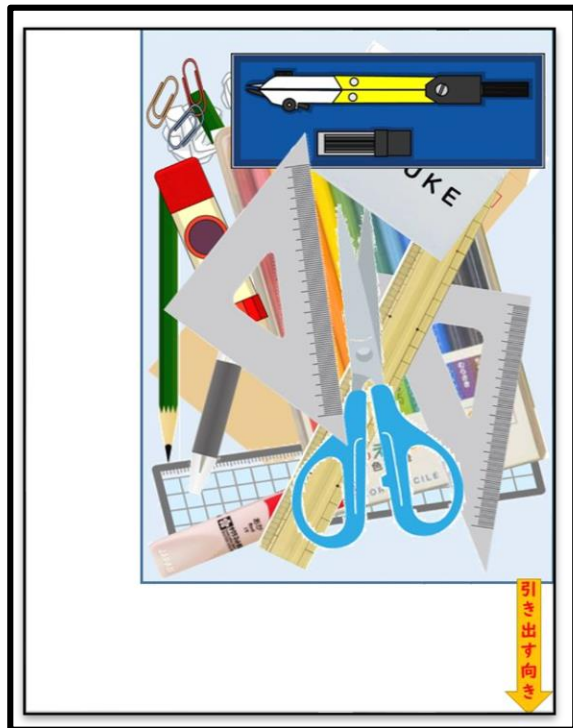
【事例におけるICT活用の場面①】

○本時の活動の見通しがもてるように、ICT端末を用いて行う整理・整頓のシミュレーション画面を大型モニターで提示する。

【事例におけるICT活用の場面②】

○整理・整頓の仕方を繰り返し試すことができるように、ICT端末画面で画像を動かしながら、個別に机の引き出しの整理・整頓のシミュレーションをする。

【事例におけるICT活用場面①】



大型モニターでの提示

【導入】 前時において、児童は、「自分の引き出しではなく、他のもので整理・整頓を試して、よい方法を見付けたい。それを、実際の整理・整頓に生かしたい」という意識をもった。そこで、全員が同じ状態の引き出しの整理・整頓を繰り返しシミュレーションできるように、ICT端末画面で操作できるスライドの引き出しを用意した。これにより、児童は、必要なものをすぐに取り出せる整理・整頓の仕方を見付けるといった目的意識を明確にした。

【事例におけるICT活用場面②】



【展開】 シミュレーションを始め、「文房具を全て引き出しからいったん出して入れ直す」「いらないものだけを取り出す」「同じ種類のものを集める・重ねる」など、多様な方法で児童はシミュレーションを行った。そして、シミュレーション後や、シミュレーションの途中で、ICT端末画面を見せ合いながら、周りの児童とシミュレーションした結果を比較したり、それぞれの方法を伝え合ったりしていた。これは、全員が同じ状態の引き出しの整理・整頓を行うことで、結果を比較しやすかったことや、図形の移動や回転などの操作が容易であったため、他者の考えを聞いて、繰り返し試しやすかったからだと考えられる。

【活用したソフトや機能】

シミュレーション

・プレゼンテーションソフト
※スライド作成画面での図形の移動や回転